

# 世界の子どもたちは、いま

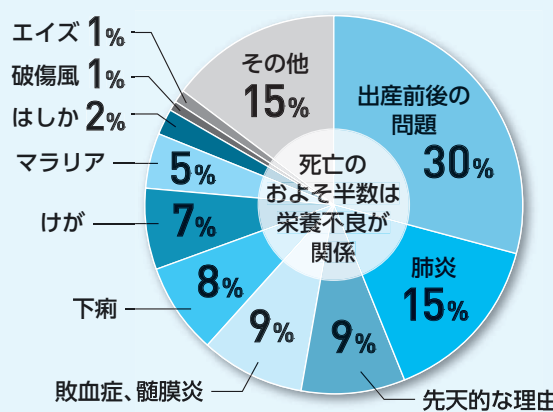
生まれた国や地域によって、さまざまな危機や困難に直面している子どもたちがいます。

## 数字で見る世界の子どもたち

✓ **5歳をむかえる前に命をうしなう子どもは年間520万人**<sup>\*1</sup>

子どもたちが命をうしなう原因<sup>\*2</sup>

(割合は四捨五入しているため、100%にならない場合があります。)



! 予防や治療ができる原因で多くの子どもたちが命をうしなっていることがわかります。

世界の5歳未満児の22%

✓ **1億4,920万人**の5歳未満の子どもが、栄養が足りず発育が阻害されている<sup>\*3</sup>

✓ **児童労働を強いられている5~17歳の子どもは世界で1億6,000万人**<sup>\*4</sup>



イエメン。鍛冶屋で働く12歳のアナス君。働く時間は一日11時間。学校には行っていません。  
© UNICEF/UN0455064/AI-Quliah

! これまで減少傾向にあり、2016年には1億5,200万人でしたが、新型コロナウイルスの影響を受け増加に転じました。

✓ **小学校就学年齢にもかかわらず小学校に通っていない子どもの数は世界で5,900万人**<sup>\*5</sup>



フィジー。サイクロンで被災した学校の図書館で。自然災害や紛争によって多くの学校が破壊されています。  
© UNICEF/UN0396379/Stephen/Infinity

! 新型コロナウイルスの感染拡大によって、一時最大15億人が休校の影響を受けました。

### ウクライナ

政府管理下にある地域と親ロシア派が支配する地域を分断するコンタクト・ライン（接触線）沿いでは8年間にわたり不安定な治安情勢が続いていたが、2022年2月、首都キエフを含む複数地域で武力衝突が発生し、多くのインフラや教育施設に被害が出ている。



ウクライナ国境を越えてルーマニアへ避難しようとする家族。子ども5人を連れた母親は「どこにも行くあてがないけれど、爆撃が始まるのを待つことはできません」と話した。  
© UNICEF/UN0597977/Elder

### 中央サヘル地域 (ブルキナファソ、マリ、ニジェール)

気候変動、情勢不安、避難生活、教育や保健などの基本的なサービスが足りていないこと、新型コロナウイルスの影響などにより、約1,360万人（うち760万人が子ども）が人道支援を必要としている。この危機は周辺の5カ国（トーゴ、ベナン、コートジボワール、ガーナ、ギニア）にも及んでいる。

### ナイジェリア

北東部と北西部で約1,280万人（うち800万人が子ども）が紛争による影響を受けている。北東部での長引く紛争による深刻なレベルの食糧不安や栄養不良、北西部での武装グループへの反撃による状況悪化に加え、黄熱病、コレラ、マラリア等の感染症が発生している。

### ベネズエラ ハイパーインフレ・政情不安・制裁措置・国外に逃れる人たち

✓ **池や川の水(地表水)を未処理のまま使わざるを得ない人は世界で1億2,200万人**<sup>\*6</sup>



マダガスカル。ようやく降った雨の後、道路に溜まった水をくむ女性。干ばつが3年に及び、水不足や栄養不良が深刻な問題となっています。  
© UNICEF/UN0406739/Andrianantenaina

## 危機下の子どもたち

地図で青くぬられている国は、人道支援のための資金を緊急に必要としている国です。

ここで取りあげている国・地域は報告書『子どもたちのための人道支援報告書 (Humanitarian Action for Children-HAC) 2022年』より抜粋

※ウクライナについては日本ユニセフ協会プレスリリース(2022年2月24日および26日発)より抜粋

### 欧州 保護を求めるたくさんの難民・移民

### ミャンマー

民政への移管が進められていたミャンマーで、国軍によるクーデターが起き、国は未曾有の政治的・人道的危機に直面している。さらに新型コロナウイルスや、気候変動による自然災害の増加、貧困の拡大、公共サービスの崩壊などで、1,440万人（うち500万人が子ども）が人道支援を必要としている。

### 中東 長期化する紛争 (シリア国内、シリア難民、イエメン)

シリアでは、2011年の紛争の発生から11年が経過、今も終結せず戦闘が続いている。人道支援を必要とする子どもの数は2020年から2021年にかけて27%増加、610万人となっている。また、2015年に内戦に陥ったイエメンは、依然として世界最悪の人道危機にあり、長引く武力紛争、広範な経済や国の制度、社会サービスの崩壊により、1,130万人の子どもの含む人口の70%が人道支援を必要としている。



理科の授業で先生の質問に答えるアフメド君、12歳。学校は爆撃で破壊され、ユニセフが支援する仮設のテント教室に通っている。「今も学校に行くのは怖いけれど、夢を叶えるために勉強を続ける」。  
© UNICEF/巻末DVD [学校への爆撃、でも夢を続けるアフメド君(イエメン)] © UNICEF/UN0459566/Marish

### 東部アフリカ 長期化する人道危機 (ソマリア、南スーダン)

ソマリアでは子どもたちが適切な保護を受けられない状況が拡大しており、2022年には770万人（うち500万人が子ども）が人道支援を必要とすることが予想される。南スーダンでは長引く紛争、社会のモロさ、教育や保健など基本的なサービスの不備が子どもたちの暮らしを脅している。2022年には830万人以上（うち子ども450万人）が基本的な生活のニーズを満たすための人道支援を必要とすると予想される。



紛争から逃れ、避難生活を送る母と娘。定期的にユニセフの保健センターを訪れ、栄養治療を受けている。  
© UNICEF/UN0471308/Taxta

### アフガニスタン

2021年夏の治安情勢の変化により、社会の不安定さが以前にもまして高まっている。2021年12月時点で2,440万人（うち子ども1,260万人）が人道支援を必要としている。児童婚や児童労働という手段に頼らざるを得なくなっている家庭も多く、学齢期の子どものうち420万人がすでに学校に通っていない。また、国民の10人に8人が安全な水を手でできない状況にあり、感染症や下痢性疾患の流行が保健サービスを圧迫している。食糧不足も深刻で110万人の子どもたちが重度の急性栄養不良で命を落とす危険にさらされている。



テントで避難生活を送る子どもたち。「子どもたちにパンも服も買うことができません」と子どもたちの父親、シャーさんは語る。仕事をを見つけるためにここへ来たが、移動先でも状況は厳しく、今後への希望がもてないままである。  
© UNICEF/UN0574503/Bidel

### エチオピア

北部で軍事衝突が発生して以来、広範囲にわたって戦闘が続いており、人道支援の必要性が高まっている。2,940万人以上（うち1,560万人が子ども）が緊急人道支援を必要としている。



双子を見守るメブラクさん。北部ティグライ州での爆撃が始まる中、二人を産んだ。その後、子どもたちを抱え、夜中に隣国スーダンへと逃れた。  
© UNICEF/UN0403276/Abdalkarim

### マダガスカル

南部では気候変動で雨が降らず、干ばつが長引き、飢饉が起きている。150万人近くが食糧不足に陥っており、5歳未満の子ども、50万人が急性栄養不良になると予測されている。



果実を分け合う子どもたち。冬・乾季にあたる7月頃、干ばつが農業に与える影響は特に深刻になる。  
© UNICEF/UN0496488/Andrianantenaina

### ハイチ

自然災害、長引く政治・経済危機、ギャングによる治安の悪化、新型コロナウイルス感染症など、人々は複合的で絡み合う問題の影響を受けている。推定295万人が緊急の保健ケアを、79万7,000人の子どもたちが教育支援を必要としている。



崩壊した建物のがれきの上に座る子どもたち。2021年8月14日、マグニチュード7.2の地震が発生。120万人が被害を受けた。  
© UNICEF/UN0518510/Haro

### モザンビーク

人道危機が続くカボ・デルガド州では、85万6,000人近く（うち41万4,272人が子ども）が避難生活を送っている。同州では、36万3,000人が食料不安の危機にさらされているうえ、新型コロナウイルスの影響で、厳しい状況にあった人々の暮らしがさらに悪化している。



カボ・デルガド州の村で、井戸から水を汲む子どもたち。ここには紛争により家を失った人々を受け入れる仮設住居がある。  
© UNICEF/UN0437463/Mercado

\*1 Levels and Trands in Child Mortality 2020 \*2 Levels and Trands in Child Mortality 2019  
\*3 UNICEF-WHO-The World Bank Joint Child Malnutrition Estimates-2021 edition \*4 Child Labour: Global estimates 2020, trends and the road forward  
\*5 UNESCO Fact sheet no.56 September 2019 \*6 Progress on household drinking water and sanitation and hygiene 2000 - 2020